日本語こぼれ話 87

動かないよ

田中　愛子

強面の刑事が数名、捜索令状を手にして暴力団事務所にやってくる。「さあ、動かないよ、動かない」と刑事は言う。捜索令状、俗にいう「がさ状」だ。「がさ」とは隠語で、「たね」を「ねた」というように、ことばをひっくりかえしたものだ。捜索の捜を訓読みして「さがす」、それをひっくり返して「がさ」となる。

さて、そんな場面での「さあ、動かないよ」である。なにかが重くて動かせなくて困っているわけではない。動いてはいけない、逃げ隠れしてはいけないと言っているのだ。他人になにかを命ずるとき、人は命令形で命令する。動け、動くなというふうに。しかし、日本語にはこんなふうな命令のしかたもあるのだ。

「ゲラ、読む！」と終止形にて命令する一亀（いつき）さんの癖を田辺氏書けり

高野公彦「コスモス」2018年10月号

この歌の人物「一亀さん」とは、戦後文学に重要な役割を果たした編集者、坂本一亀のことである。そして田辺園子氏の著した評伝「伝説の編集者　坂本一亀とその時代」によると、坂本には軍人の名残りがあり、戦争映画に出てくるような軍人に見えたという。そして、命令をくだすときは、「スル！」「読ム！」「行ク！」「出ス！」というふうに語尾を終止形にしたと記している。終止形の命令用語は軍隊で使われていたものだろうと田辺氏は推測する。

命令は目上の者が目下の者に対して発するものであるが、終止形の命令用語を用いると、その立場がいっそう際だつようだ。直接に命令する言い方ではないのに、終止形を用いることによって、命令形よりもかえって断言する感じが強まるからだろうか。とすると、刑事の「動かない」という言いぶりも分かる。丁寧さあるいは親密さを装いながら、あきらかに、〈自分たちはあなた方よりずっと優位な立場〉にあるということを示し、同時に、あからさまな脅し文句とならないような表現にする。なかなか見事な言葉の工夫である。

こういった終止形の命令用語は時代劇でもよくみられる。江戸っ子が久しぶりに訪ねてきた友人を「さあさあ、あがった、あがった」とまねき入れたのに、酒を酌みかわすうちに酔いがまわって語気も荒くなり、ついには、気の短い江戸っ子は、せっかく訪ねてきた友人に向かってこう言うのだ。「さあ、帰った帰った」。